後輩たちへのエール！　その47

２０２１年１１月２４日

「普通」という名の檻から抜け出せ！！

◇今回は、山村雄太さん(NPO法人 SEVENSEEDS代表)のメッセージです！

１．私たちが向き合う「普通」

「普通・一般・常識・当たり前」という概念が、私たちの周りに気付かぬうちにまとわりついています。きっと君にも、この空気のような概念が覆っているのではないでしょうか？

僕は、13 年間岐阜県で小中学校の教員をしてきました。目の前で「理由がわからないけど守らなければならないとされる校則を変えようとする子」・「納得できないキャンペーン活動に断固として参加しない子」・「形だけの行事を自分達らしい行事に改革しようとする子」が苦しむ姿を見てきました。その子たちと、自分達の力で自分達の納得できる学びの環境を創ろうと活動してきました。しかし、「普通」という概念の抵抗は強く、根本的な改革の難しさを感じていました。

でも、高校生の皆さん、君たちの時代はこれまでとは違います。言われたことを言われた通りにやり、周りと同じことをやっているだけでは、成果を出しにくい時代になります。それほどまでに、変化の大きな社会をみなさんは生きることになります。「普通」ではなく、君なりの答えが求められる時代を生きることになります。この大きな変化に、気づく人は気づき始めています。

そんな中僕は、僕なりの答えを出すことにしました。教員を辞めるという答えです。「面白い子を面白いまま世の中に出したい」と願い、NPO 法人 SEVENSEEDS を立ち上げました。

２．SEVENSEEDS の見たい未来

みなさんは「飛ばないノミ」という心理学の話を知っているでしょうか？簡単に話すと次のようなことです。

元々、ノミというのは自分の体の何十倍ものジャンプ力があります。 そんなノミにコップをかぶせると、当然コップの高さまでしかジャンプできなくなります。 その状態で一定時間置いておくと、そのノミはコップから出しても、それ以上の高さまでしかジャンプしなくなるのだそうです。

これが何を表しているのか分かりますよね。君は君の天井をこれまでの「普通」というものによって決めてしまっていませんか？天井を設定してしまっているのは、自分自身です。

僕たち SEVENSEEDS ではこの「天井」を取っ払うための活動をしています。この「天井」を取っ払うことができ、「そんなこともしていいんだ・それもアリなの！？」という感覚を持てる人が増えれば、面白いことに挑戦できる人が増えるのではないかという夢を描いています。面白いことに挑戦できる人が増えれば、これまでに無い解決策が溢れて、関市に岐阜県に、東海に日本に世界に幸せを感じられる人が１人でも増える。そんな未来を見たいのです。

さまざまなコンテンツを運営していますが、そのうちの１つが「マイ村キャンプ」です（写真右）。何も無いところに、自分達の手で、自分達の理想の村を創る村づくりキャンプです。ここでは、時間の制限も、何をするのかも決められていません。自分達の理想の村に向けて、自分がやりたいことをやり、仲間に貢献できればいいのです。もっと言えば、貢献できるかどうかは二の次です。自分の「やりたい」を思いっきり表現できる場です。大人は、見守ることに徹し、手も口も出しません。

また、新たな活動として、「真剣 Biz 経営塾」も始まりました。これは、自分達の力で商品の企画・開発からマーケティング、広報、販売までを行う、経済の学び場です。

いずれにしても共通しているのは「自己決定」する力を回復することです。「普通」に縛られず、自分で決めることに挑戦し、自分で決めた天井を壊す場を提供しています。

３．原点「オリジン」

僕の関高校生活はとても自由でした。もちろん、それと引き換えに先生方にはとても迷惑をかけてきたと思います（ごめんなさい）。が、何かに縛られているという感覚は無い生活を送っていました。

何よりも行事やイベントが好きで、特に体育祭には命をかけていました。3 年生の時には北部の応援団長を任せてもらいました。当時、北部は 14 連覇中で「優勝するのが当たり前」と、大きなプレッシャーの中で練習をしていたことを覚えています。この「優勝して当たり前」に応えるために活動するうちに、練習はつまらないものとなり、仲間との温度差に苛立ち、僕自身がその場の雰囲気を悪くしてしまうことが何度もありました。

ある時、そんな孤独感に耐えられなくなり、信頼する仲間に泣きながら自分の思いを訴えました。仲間は「やまちゃんが楽しめないのなら、やらなくていい」と話してくれました。僕は目の前の仲間や団員が喜ぶためでもなく、自分自身が楽しむためでもなく、何か分から

ない「15 連覇するのは当たり前」という空気に、もっと言うなら「自分が周りからどう見られるか」という体裁のために動いていたことに気付かされました。心から反省しました。

　それからはとても楽になりました。「仲間や団員のみんな、そして自分が楽しいと思える練習になっているのか？」考えることはそれ１つになりました。練習では、徹底してみんなの良かったことだけを伝え、暑い日は休憩時間をたくさん取り、仲間や団員の意見を聞く時間を設けることにしました。団員も応援団も笑顔で終わる体育祭になりました。

　「自分が周りからどう見られるのか」を無意識的に考えていた結果、支えてくれていた目の前の仲間や、自分自身の楽しむ心を見失っていました。

４．最後に

　改めて。「普通」という感覚は空気のようなものです。ですから、「普通」ではない行動を取ると、「空気を読め」などと言われるのでしょう。「普通」という感覚は、そこに確かに存在しているのだけれど、意識しなければ感じることができないくらい刷り込まれたものです。ですから、ここから抜け出すことは本当に難しいです。

　全員にイノベーターになってほしいと言っているのではありません。そうではなくて、自分の心に正直に生きられる自分の納得のいく人生を歩んでほしいと願っています。

　僕は今、まさに挑戦者です。やろうとしていることが本当に誰かのためになるのか、模索中です。でも、毎日が充実しています。それは自分で自分の人生を決めたからです。

　君の人生は君のものです。君だけの人生を歩んで、一緒に日本を盛り上げましょう。

　「空気なんて読めなくたっていいじゃないか」

　前を向いてコツコツ進んでいけば、これで良かったのだと思える瞬間が必ず来ます。プラスであれマイナスであれ、学生時代に積み重ねた経験は、今後のあなたの人生の手助けになってくれます。